

Systemex

BeFine!

第41期営業のご報告

2007年4月1日～2008年3月31日

証券コード 6869



40th Anniversary

シスメックス株式会社

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を拡げつつあるシスメックス。健康への関心が高まる社会のなか、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「Be Fine! (健やかに!)」は、シスメックスグループと株主の皆様の架け橋として四半期ごとに発行しています。

業績の推移 1

ごあいさつ 1

事業のご報告

所在地別セグメント 3

トピックス・特集

トピックス

第41期の主な事業活動 5

フォーカス オン シスメックス

おかげさまで40周年

シスメックスの軌跡 6

財務諸表の概要

連結 9

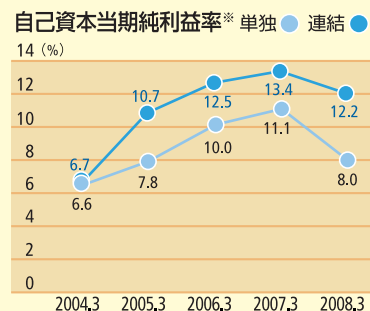
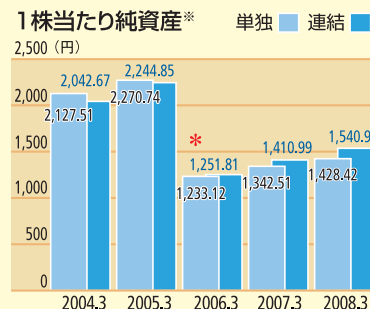
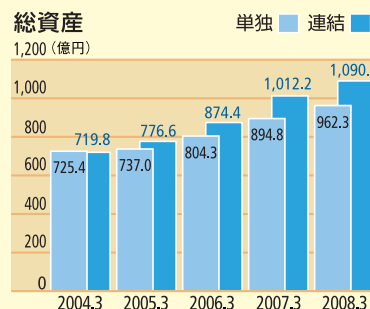
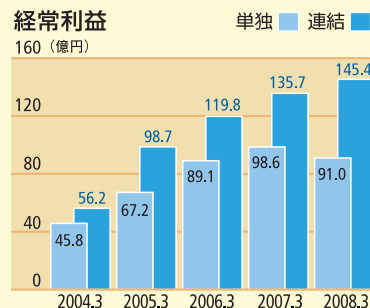
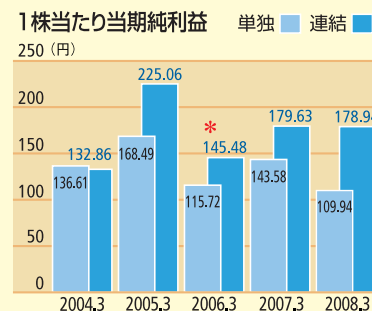
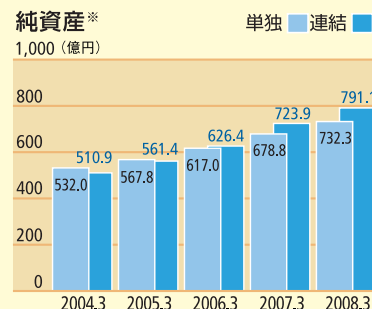
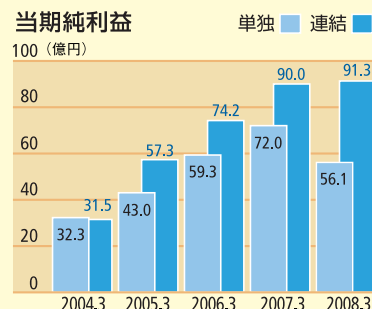
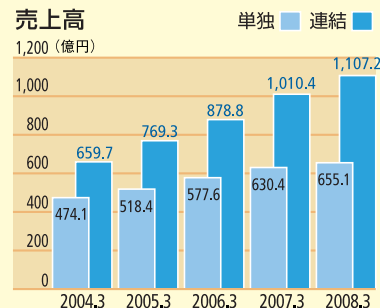
単独 11

事業別売上高/品目別売上高/
製品一覧 12

株式の状況/会社概要/
株主メモ/役員のご紹介 13

IR・広報室からのお知らせ

業績の推移



*2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

※過年度の数値については、従来の「株主資本」を「純資産」のグラフに、「1株当たり株主資本」を「1株当たり純資産」のグラフに、「株主資本当期純利益率」を「自己資本当期純利益率」のグラフに記載しております。

ごあいさつ

過去最高の業績を達成し シスメックスは次のステー

売上高8期連続、 経常利益7期連続最高を更新

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループを取り巻く医療環境は、日本では医療制度改革の影響により依然厳しい状況が続いておりますが、今年4月より、メタボリックシンドロームの早期発見を目的とした特定健康診査が開始されるなど、病気の予防に向けた取り組みが強化されています。これにより、検査の重要性が再認識され、新たな需要の創出が期待されます。

海外では、欧米の先進諸国にて医療費の削減が進む一方、中国・アジア諸国では、経済成長に伴う医療環境整備が継続して進められ、市場の拡大が期待されます。

このような状況のもと、当社グループの当期連結決算は過去最高の業績を達成し、売上高は8期連続、経常利益は7期連続、最高を更新しました。

日本は、新製品の市場投入の遅れなどから、前年を下回る結果となりましたが、海外売上上の二桁成長により、これをカバーすることができました。この結果、海外売上高比率はさらに伸張し、67.5%となりました。特に直接販売・サービス活動を推進する欧州の伸びはグループ全体の売上を牽引しており、今後もこの成長を持続させていきたいと考えています。また、米

迎えた創立40周年。 ジに向けて躍進します。

州では、販売・サービス体制の拡充により、シスメックスブランドの浸透が進み、大型案件の受注を獲得するなど、順調に成長を続けています。

配当金につきましては、1株につき年間40円（中間期20円、期末20円）を当初予定しておりましたが、本年は創立40周年を迎えることから、記念配当として1株につき8円増配し、年間48円といたしました。これにより、連結での配当性向は26.8%となります。

主力事業における新製品の発売と グローバルベースでの直販化の推進

当期の主な取り組みとして、主力事業である血球計数分野で新製品を発売しました。これは血液中の白血球、赤血球の数や種類などを測定する従来の機能に加え、骨髄液などの体液測定*も可能とし、緊急性の高い髄膜炎などの重篤な病気の発見に寄与する製品です。また、感染症やがん、心疾患などの診断で重要になる免疫血清検査の新製品も発売しました。これらの新製品によって、検査精度の向上や検査時間の短縮を実現し、検査の質の向上や患者さんの負担軽減に貢献したいと考えます。

新たな事業展開としては、スイスのロシュ社と販売・サービス契約の更新を行い、両社の強みを活かした市場シェアの向上を推進しました。フランスの細菌検査分野最大手であるピオメリュー社とは販売・サービ



40th Anniversary

ス契約を締結、米国の動物検査分野最大手であるアイデックス社とは今後の両社の協力について基本合意し、事業の拡大を図ります。

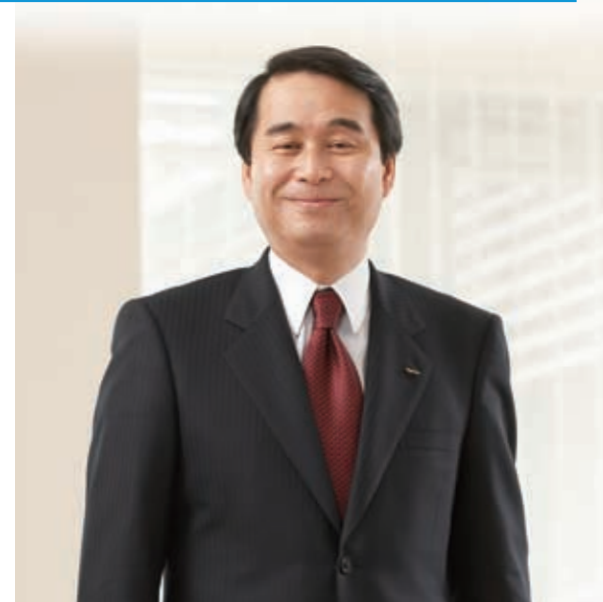
また、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコでは直販化を進め、販売・サービス網を拡充しました。カナダにおいてはシスメックス カナダを設立し、直接販売・サービスを開始しました。グローバルベースで直販化を着々と進めることにより、事業展開を一層加速させます。

新企業理念「Sysmex Way」のもと、40周年の節目にさらなる 飛躍を目指す

2008年、シスメックスグループはおかげさまでもちまして、創立40周年を迎えることができました。皆様のご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。当社は、40周年である本年をひとつの節目と捉え、次のステージに向かうため、さらなる企業価値の向上と、新しい検査技術の創出を図ってまいります。

その取り組みのひとつとして、昨年、時代の変化に合わせて再定義した新企業理念「Sysmex Way」を制定しました。本年は、この「Sysmex Way」を実践していく年として、企業価値を高める活動を積極的に展開してまいります。

また、新しい検査技術の創出を目指した取り組みとして、10月に「シスメックス テクノパーク」が竣工します。



代表取締役社長

泉 次 恒

いえずく ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」

「知」の創造と継承」をコンセプトに、当社の研究開発拠点は、シスメックスのテクノロジーの源泉として新たなスタートを切ります。

シスメックスはこれからも、豊かな健康社会を実現し、企業としての社会的責任を果たすため、グループ一丸となって新たなステージへの挑戦を続けてまいります。今後の活動にますますご期待ください。

株主の皆様には、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*体液測定は研究用の測定項目です。（多項目自動血球分析装置 XE-5000）

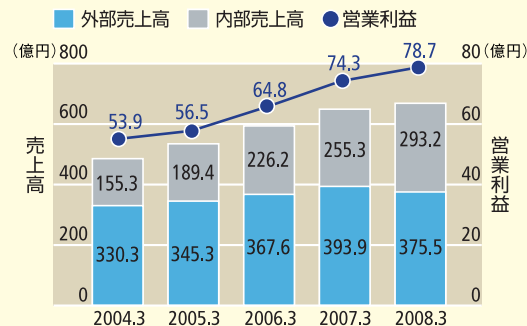
日本

輸出売上高増加により増収増益
トータルソリューション*で大型案件を獲得

- 海外への機器の輸出が好調に推移し、日本所在地*での売上高・利益とも増収増益となりました。
- 免疫検査、血液凝固検査の新製品投入の遅れなどにより、国内売上高は前年を下回る結果となりました。
- しかしながら、シスメックスの強みであるトータルソリューションにより、大学病院などの新規大型案件を複数獲得し、今後につながる大きな成果を得ました。



HSTシリーズ



*韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

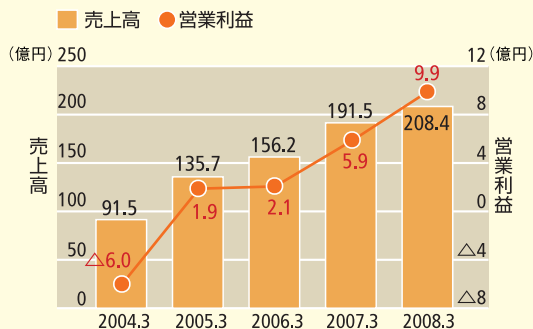
米州

シスメックスブランドが浸透
原価率の改善により営業利益は大幅に増加

- 北米では、当社製品に対する高い評価から、IHN* (統合医療ネットワーク) や血液センターなど、大型案件の販売が好調に推移しました。
- また、大手検査センターへ製品を販売したほか、SNCS*を活用した提案型の販売により、1年余りで1,000台を超える実績を上げました。
- 中南米では、ラテンアメリカ最大の検査センターへの納入などにより、売上が好調に推移しました。



コールセンターのオペレーター



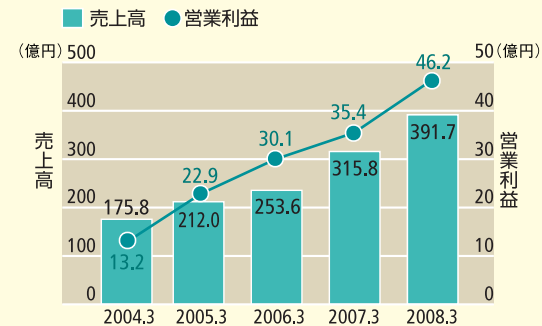
欧州

直接販売・サービスエリアの拡大と
新興市場の大幅な成長により、
20%超の増収増益を達成

- ドイツ、イギリスなどの先進諸国では医療制度改革の影響から伸長率が鈍化しました。
- 直接販売・サービスを開始した、スイスやチェコ、オーストリア、ハンガリー、スロバキアなどの中欧では、販売が好調に推移しました。
- 中東やアフリカなどの新興市場では、市場の拡大とともに売上が大きく進展しました。今後ますます需要の伸びが期待されます。



多項目自動血球分析装置 XE-5000



*トータルソリューション：検査情報システムを軸として、機器、試薬、サービス&サポートを組み合わせることで、お客様の問題解決を図り、価値を提供すること。

*日本所在地の売上には、国内での売上（外部売上）、韓国・台湾への売上（外部売上）、グループ企業への売上（内部売上）を含みます。

*IHN：米国の総合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

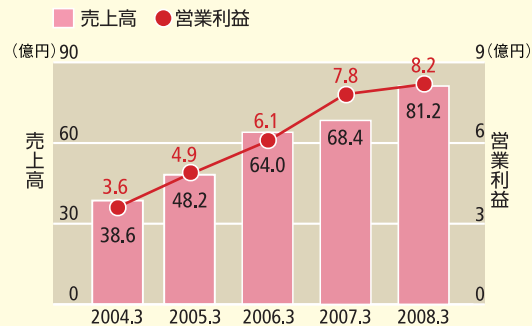
中国

クリーンキャンペーンによる
停滞が緩和し
今後の需要増加に期待

- 一昨年から続いていた医療機関の汚職撲滅を
目指したクリーンキャンペーンの影響がようやく
緩和され、中規模以上の医療施設への販売が好
調に推移しました。
- 血液凝固分野と、尿分野の販売が躍進しました。
- 医療環境の整備が続く中国市場は、今後さらなる
成長が期待されます。



全自動尿中有形成分分析装置 UF-1000i



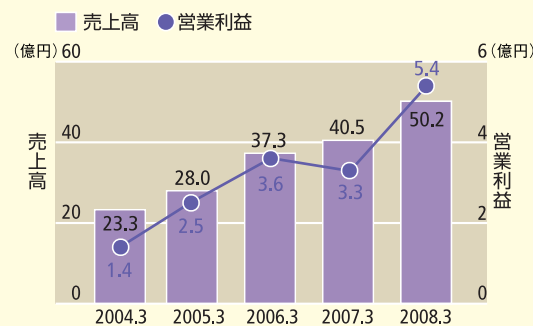
アジア・パシフィック

市場の拡大とともに、着実な成長を実現
検体検査領域の
リーディングカンパニーへ

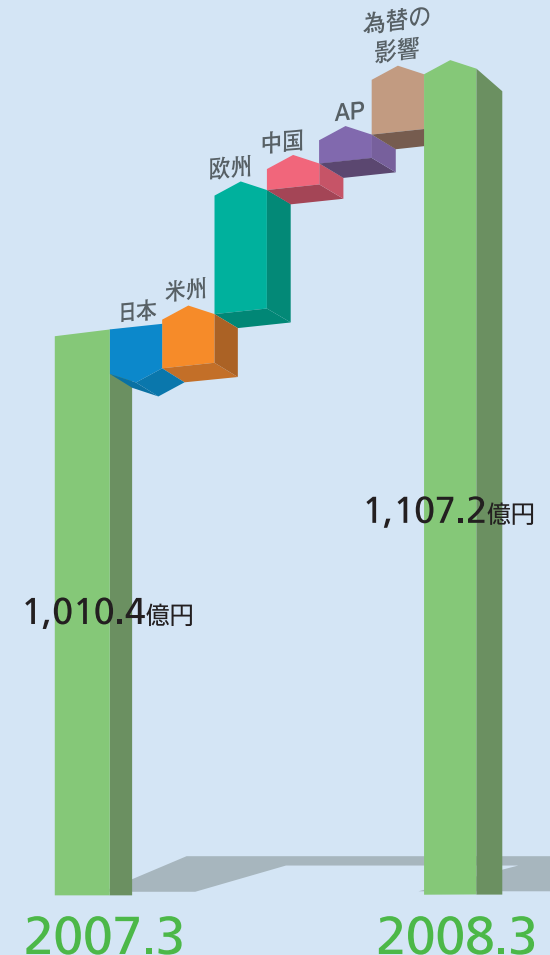
- マレーシアでは、政府の大型案件を獲得、フィリ
ピン、オセアニア地域では、システム製品の販売
が好調に推移し、前期を大きく上回りました。
- 昨年、新工場を立ち上げたインドでも販売が好調
に推移し、市場の拡大とともに売上が増加しました。
- 今後もアジア・パシフィック市場は力強い需要が
期待できます。



パティ工場(インド)



●市場別売上高の変化



*SNCS:お客様の製品とカスタマーサポートセンターの端末をオンライン接続し、
オンラインサポートやオンラインQCを提供するサービス。

2007

- 4月 ●シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」を制定
 - 当社技術が「平成19年度文部科学大臣表彰」を受賞
 - オーストリア、スロバキア、ハンガリー、チェコの4カ国の拠点整備着手を発表
- 5月 ●シスメックスグループ中期経営計画を発表
 - ★呼吸器感染症迅速診断キット「ポクテムSシリーズ」3品目を発売
- 6月 ●ロシュ社(スイス)との当社製品に関する販売・サービス契約を更新
 - ビオメリュー社(フランス)と当社尿分析装置に関する販売・サービス契約を締結
 - ▲神戸の中学生による職場体験「トライやる・ウィーク」に協力
- 8月 ■韓国政府より血球分析装置に関する大型案件を受注
- 10月 ★血液中のたんぱく質などを測定する「全自動免疫測定装置HISCL-2000i」を発売
 - ▲ピンクリボン シンポジウムに協力
 - 販売・サービス子会社『シスメックス カナダ』を設立
- 11月 ■当社技術が「平成19年度近畿地方発明表彰」を受賞

Sysmex Way



ポクテムS インフルエンザ



HISCL-2000i

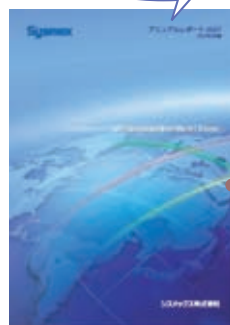


ピンクリボンシンポジウム(神戸)
[写真提供:朝日新聞社]



神戸ルミナリエ
(C)Valerio Festi/I&F Inc./Kobe Luminarie O.C.

シスメックスの1年をご紹介します年次冊子です



年次報告書2007



シスメックス フランス

- 11月 ■東京国際女子マラソン大会にて、シスメックス女子陸上競技部 野口みずき選手が大会新記録にて優勝
 - ラテンアメリカ最大の検査センターDiagnostics da America SAより血液分析システムを受注
- 12月 ▲神戸ルミナリエに協賛
 - 動物検査分野最大手のアイデックス社(米国)と、今後の協力に基本合意
 - 米国のIHN(統合医療ネットワーク) Inova Health Systemより血球分析装置を受注

2008

- 1月 ●日本ビオメリュー社に出資し、シスメックス・ビオメリュー株式会社として4月からのスタートに合意
 - 日経アンニュアルレポート・アワードにて「入賞」、「特別賞」を受賞
 - マレーシア政府より血球分析装置を受注
 - 米国の大手検査センターより血液画像分析装置を受注
- 2月 ●フランスにて4月より直接販売・サービスを開始することを発表
- 3月 ■野口みずき選手が北京オリンピック女子マラソンの日本代表選手に決定

おかげさまで40周年 シスメックスの History of Sysmex 軌跡

2008年、おかげさまでシスメックスは創立40周年を迎えることができました。当社を支え、育ててくださった皆様への感謝の思いを込めてシスメックスの過去・現在・未来をつなぐストーリーを4回シリーズでご紹介します。



国産初の
自動血球計数装置
CC-1001

第1話・健康への思いと夢 —創業から受け継がれる精神—



海外視察へ旅立つ
中谷(右)



創業者 中谷 太郎

中谷は“アメリカに行けば、10年後の日本の姿が見られるのではないか”と考え、1959年、経営の多角化のヒントを得るべく旅立ちます。

8人からのスタート

「健康な人でも検査を受け、身体を大切にすることが必ず来る」。1950年代後半、日本では国民皆保険制度がスタートし、「人間ドック」という、当時聞かれない言葉が世間をにぎわせていました。拡声器メーカーである東亜特殊電機株式会社(現TOA株式会社)の副社長(のち社長)中谷 太郎は、経営の多角化こそが事業の発展に不可欠であると考え、「第二の柱」として血球計数装置の開発に挑みます。

当時の血球計数装置は、米国企業の製品が市場をほぼ独占していました。その企業の特許をいかに回避し、実用化していくか。3名の若き研究者たちは幾度となく失敗を繰り返し、時には火傷を負いながらも、困難な技術の開発に挑戦します。

1961年、研究者たちの努力と情熱は、まったく新しい独自の原理を生み出します。研究開始から5カ月あまりという短期間での成果でした。その後、試行錯誤を繰り返した血球計数装置は、1963年に製品として完成します。

その後、高度成長期といわれた時代が幕を開け、

市場の拡大とともに、血球計数装置は順調に販売台数を伸ばしていきました。1968年、自分たちで創り出した製品を自分たちのコントロールのもとで販売しようと、「東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)」を設立。社長に就任した中谷以下8名での出発となりました。

熱意と期待に支えられて

今までとはまったく異なる分野で開発者たちが新製品の開発を成し遂げたのは、未知なるものへ挑戦する熱意、そしてさまざまな研究機関のご協力があったことでした。また、常に信頼性が求められる医療分野において、当時、まったく納入実績のない当社の製品がお客様にご採用いただけたのも、国産メーカーである当社に対し、身にあまる期待をおかけくださったからに他なりません。このような先生方のご支援があったからこそ、当社の今日の発展があるといえます。お客様からの貴重なご意見・ご指導は、創業以来、当社の製品を進化させる道しるべとなっています。

次のページではシスメックスの
40年の歩みをご紹介します。

“新しいものに挑戦する”

シスメックスは「事業領域の拡大」「海外進出」と、常に「挑戦」を続けてきました。

1968~

売上高 **1.5億円** | 従業員数 **7人**

成長への布石 製品開発と海外進出

シスメックスは「東亜医用電子株式会社」として、資本金200万円でスタートしました。創業当初から海外展開を視野に入れていた当社は、世界に通用する製品の開発と、国内はもちろん、海外での市場開拓に取り組みます。

1968年

- 東亜医用電子株式会社
(現シスメックス株式会社)
を設立



1973年

- 加古川工場竣工
開発・生産・販売・総務部門を集結

1975年

- 国産初の全自動血球計数装置
CC-710を発売



1978~

売上高 **39億円** | 従業員数 **334人**

世界ブランドを目指して 事業分野の拡大

創立10周年を機に、新ブランド「Sysmex」が誕生します。ブランドの誕生は、その後の米国・欧州における現地法人の設立とともに、海外展開における大きな一歩となりました。一方で、血液凝固分野・免疫血清分野など、新たな分野の製品開発にも挑戦し、次々と新製品が登場します。

1978年

- 創立10周年を機に
新ブランド「Sysmex」を
制定

Systemex



1979年

- 米国現地法人を設立

1980年

- 欧州現地法人を設立



1984年

- 自動血液凝固測定装置CA-100を発売し、
血液凝固分野へ参入

1987年

- PAMIA-10を発売し、
免疫血清分野に
進出



1988~

売上高 **158**億円 | 従業員数 **708**人

「日本のシスメックス」から 「世界のシスメックス」へ

「血球計数分野で世界一を目指す」との目標のもと、「世界のシスメックス」への挑戦が始まります。海外拠点の整備やアライアンスの活用により世界進出を図りました。また、阪神・淡路大震災を乗り越えての株式市場上場など、事業基盤の強化が進みます。

1988年

- 世界初の自動網赤血球測定装置R-1000を発売



1990年

- 世界初の完全自動化総合血液検査システムを発売



1991年

- 英国にて直接販売・サービスを開始



1993年

- 欧州の試薬生産拠点ノミュンスター工場(ドイツ)を竣工



(左:橋本前社長)

1995年

- 中国に試薬生産拠点を設立
- デイド・インターナショナル社(現シーメンス社)と血液凝固製品の販売に関する業務提携
- 大阪証券取引所市場第二部上場

1996年

- 東京証券取引所市場第二部上場
- 家次 恒社長就任

1998~

売上高 **383**億円 | 従業員数 **1,724**人

血球計数分野 世界シェアNo.1の獲得と ライフサイエンス領域への挑戦

世界のメジャー企業とのアライアンスなどにより、事業をさらに拡大したシスメックスは、ついに血球計数分野で世界シェアNo.1を獲得しました。また、医療が「治療から予防へ」と変化するなか、ライフサイエンス領域の研究開発に着手。がんや糖尿病における、新たな「価値の高い検査」の創出を目指し、シスメックスの挑戦は続きます。

1998年

- シスメックス株式会社に社名変更
- F.ホフマン・ラ・ロシュ社とグローバルな業務提携に基本合意

2000年

- 東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部昇格
- テクノセンター内に中央研究所を開設

2002年

- 株式交換により国際試薬株式会社(現シスメックス国際試薬株式会社)を完全子会社化

2004年

- 株式会社シーエヌエーと資本業務提携

2006年

- ライフサイエンス事業初の製品、遺伝子増幅検査装置RD-100iを欧州にて市場導入



2008年

- シスメックス テクノパーク完成予定(10月)

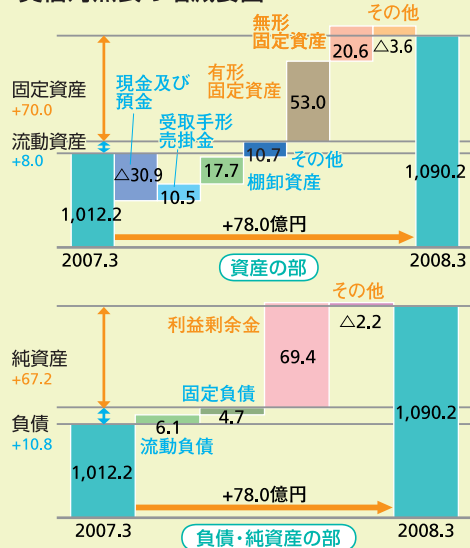
2008

売上高 **1,107**億円 | 従業員数 **3,333**人

※記載の売上高、従業員数は、各年の年度期末データです。

●貸借対照表の増減要因

(単位:億円)



●資産及び純資産

資産合計は、前期末と比べて78億1百万円増加し、1,090億27百万円となりました。主に、当社における新たな研究開発拠点である「シスメックス テクノパーク」の建設等に伴い、有形固定資産が53億1百万円増加したこと等によるものです。

純資産は、主に資本剰余金が18億57百万円、利益剰余金が69億42百万円それぞれ増加したこと等により、前期末と比べて67億20百万円増加し、791億17百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末の70.5%から1.7ポイント上昇して72.2%となりました。

貸借対照表

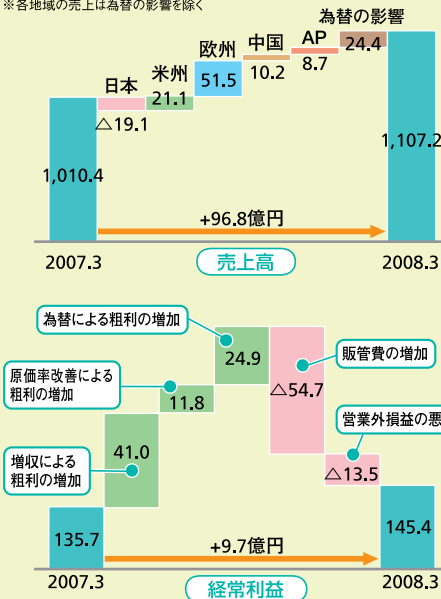
(単位:百万円)

	当期末 2008年3月31日現在	前期末 2007年3月31日現在	増減額
流動資産	66,923	66,120	
固定資産	42,103	35,104	
資産合計	109,027	101,225	7,801
流動負債	26,241	25,634	
固定負債	3,668	3,195	
負債合計	29,910	28,829	1,081
資本金	8,651	8,501	
資本剰余金	13,588	11,731	
利益剰余金	55,737	48,794	
自己株式	△185	△163	
株主資本合計	77,791	68,864	8,927
その他有価証券評価差額金	351	805	
為替換算調整勘定	610	1,674	
評価・換算差額等合計	962	2,480	△1,518
新株予約権	236	—	236
少数株主持分	127	1,051	△924
純資産合計	79,117	72,396	6,720
負債純資産合計	109,027	101,225	7,801

●売上高・経常利益の増減要因

(単位:億円)

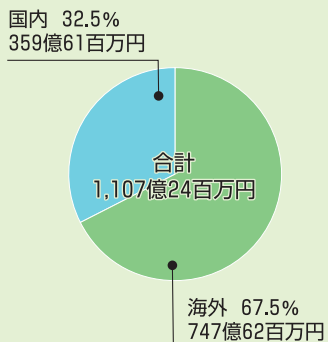
※各地域の売上は為替の影響を除く



●売上高

売上高は1,107億24百万円(前期比9.6%増)となりました。国内売上高は359億61百万円(前期比5.0%減)、海外売上高は747億62百万円(前期比18.4%増)となり、海外の構成比は67.5%(前期比5.0ポイント増)となりました。

—— 地域別売上高(当期連結) ——



損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで	前年同期 増減率(%)
売上高	110,724	101,041	9.6
売上原価	45,396	43,497	
売上総利益	65,327	57,543	
販売費及び一般管理費	50,293	44,828	
営業利益	15,033	12,714	18.2
営業外収益	880	1,185	
営業外費用	1,369	322	
経常利益	14,545	13,577	7.1
特別利益	40	370	
特別損失	661	180	
税金等調整前当期純利益	13,924	13,768	1.1
法人税、住民税及び事業税	5,245	5,139	
法人税等調整額	△428	△424	
少数株主損益	△24	44	
当期純利益	9,131	9,008	1.4

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,634	10,085
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,883	△6,630
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,316	△457
現金及び現金同等物に係る換算差額	△479	301
現金及び現金同等物の増減額	△3,044	3,298
現金及び現金同等物の期首残高	12,714	9,416
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増加高	8	—
現金及び現金同等物の期末残高	9,679	12,714

●営業利益・経常利益・純利益

営業利益は、販売・サービス費用の増加による販売費及び一般管理費の増加を増収効果、原価低減により補い、150億33百万円(前期比18.2%増)となり、経常利益は145億45百万円(前期比7.1%増)、当期純利益は91億31百万円(前期比1.4%増)となりました。

●キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、30億35百万円減少し、96億79百万円となりました。なお、一部の連結子会社の決算期を変更したことによる各キャッシュ・フローに含まれない現金及び現金同等物の増加額は、8百万円となっています。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、116億34百万円(前期比15億49百万円増)となりました。主に、税金等調整前当期純利益が139億24百万円(前期比1億56百万円増)となったこと、売上債権の増加額が24億62百万円(前期比19億29百万円減)となったこと、棚卸資産の増加額が19億17百万円(前期比16億19百万円増)となったこと、仕入債務の増加額が14億68百万円(前期比7億77百万円増)となったこと等によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

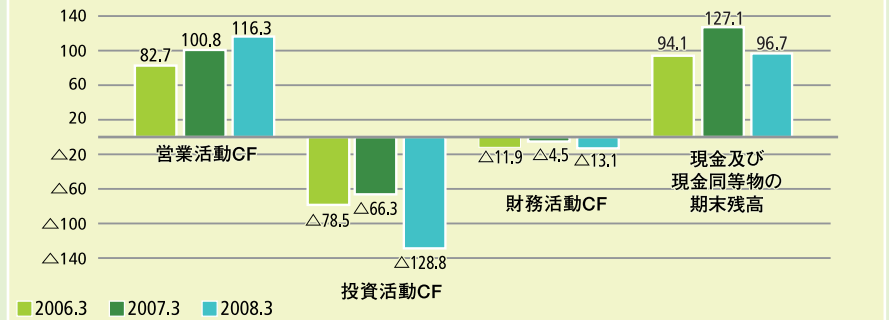
投資活動の結果使用した資金は、128億83百万円(前期比62億52百万円増)となりました。主に、有形固定資産の取得による支出が82億65百万円(前期比36億36百万円増)となったこと、無形固定資産の取得による支出が24億60百万円(前期比9億72百万円増)となったこと等によるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、13億16百万円(前期比8億58百万円増)となりました。主に、短期借入金の純増加額が4億91百万円(前期は1億18百万円の純減)となったこと、ストック・オプションの行使に伴う株式の発行による収入が2億99百万円(前期比7億94百万円減)となったこと等によるものです。

●キャッシュ・フローの推移

(単位:億円)



株主資本等変動計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式				
2007年3月31日残高	8,501	11,731	48,794	△163	2,480	—	1,051	72,396
新株の発行(新株予約権の行使)	149	149						299
新株の発行(株式交換)		1,706						1,706
剰余金の配当			△2,031					△2,031
当期純利益			9,131					9,131
自己株式の取得				△22				△22
自己株式の処分		0		0				0
連結子会社の決算期変更に伴う減少高			△157					△157
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					△1,518	236	△924	△2,206
2008年3月31日残高	8,651	13,588	55,737	△185	962	236	127	79,117

貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末	前期末	増減額
	2008年3月31日現在	2007年3月31日現在	
流動資産	45,983	46,649	
固定資産	50,249	42,831	
資産合計	96,232	89,481	6,751
流動負債	21,598	20,327	
固定負債	1,394	1,272	
負債合計	22,993	21,599	1,393
資本金	8,651	8,501	
資本剰余金	14,519	12,662	
利益剰余金	49,710	46,132	
自己株式	△185	△163	
株主資本合計	72,695	67,132	5,563
その他有価証券評価差額金	306	749	
評価・換算差額等合計	306	749	△442
新株予約権	236	—	236
純資産合計	73,239	67,881	5,357
負債純資産合計	96,232	89,481	6,751

損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期	前年同期 増減率(%)
	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	
売上高	65,518	63,046	3.9
売上原価	29,936	29,179	
売上総利益	35,582	33,866	
販売費及び一般管理費	28,403	27,519	
営業利益	7,178	6,346	13.1
営業外収益	3,181	3,791	
営業外費用	1,256	275	
経常利益	9,103	9,862	△7.7
特別利益	137	204	
特別損失	1,084	105	
税引前当期純利益	8,156	9,961	△18.1
法人税、住民税及び事業税	2,921	2,994	
法人税等調整額	△374	△233	
当期純利益	5,610	7,200	△22.1

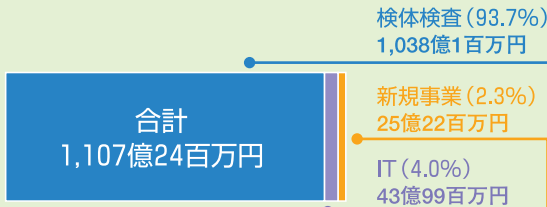
株主資本等変動計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

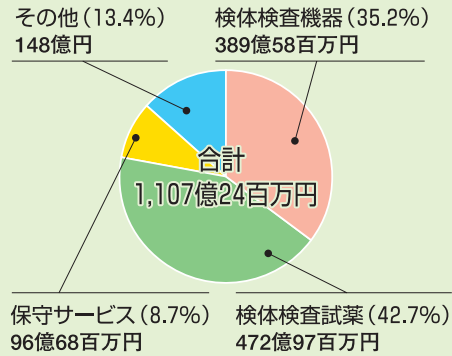
(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2007年3月31日残高	8,501	12,662	46,132	△163	749	—	67,881
新株の発行(新株予約権の行使)	149	149					299
新株の発行(株式交換)		1,706					1,706
剰余金の配当			△2,031				△2,031
当期純利益			5,610				5,610
自己株式の取得				△22			△22
自己株式の処分		0		0			0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)					△442	236	△206
2008年3月31日残高	8,651	14,519	49,710	△185	306	236	73,239

■事業別売上高(連結)



■品目別売上高(連結)



お買い物ついでに健康チェック! 健康管理支援サービス※「タッチで続ける健康日誌」



1～4の測定と設問への回答結果をもとに、健康情報をご提供するサービスです。現在、全国のイオングループの店頭をはじめ、37施設でご利用いただけます。

(2008年5月27日現在)

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://prowell.jp>

※本サービスで提供される内容は、病気を診断するものではありません。
健康状態に不安がある場合は医師の診察を受けてください。

検体検査

■総合血液検査システム



HSTシリーズ



XE-Alpha N

■血球計数検査



多項目自動血球分析装置 XE-5000



多項目自動血球分析装置 XT-2000i



多項目自動血球分析装置 XS-1000i

■血液凝固検査



全自動血液凝固測定装置 CS-2000i



全自動血液凝固測定装置 CA-500

■免疫血清検査



免疫凝集測定装置 PAMIA-40i



全自動免疫測定装置 HISCL-2000i

■尿検査



全自動尿中有形成成分分析装置 UF-1000i

IT

■検査情報システム



臨床検査情報システム SIS



血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA

新規事業

■産業用粒子計測



フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000



シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000

■ヘルスケア



末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU

POC検査



多項目自動血球計数装置 poch-100i



自動血液凝固測定装置 CA-50



呼吸器感染症迅速診断キット ポクテムS インフルエンザ

■検体検査試薬



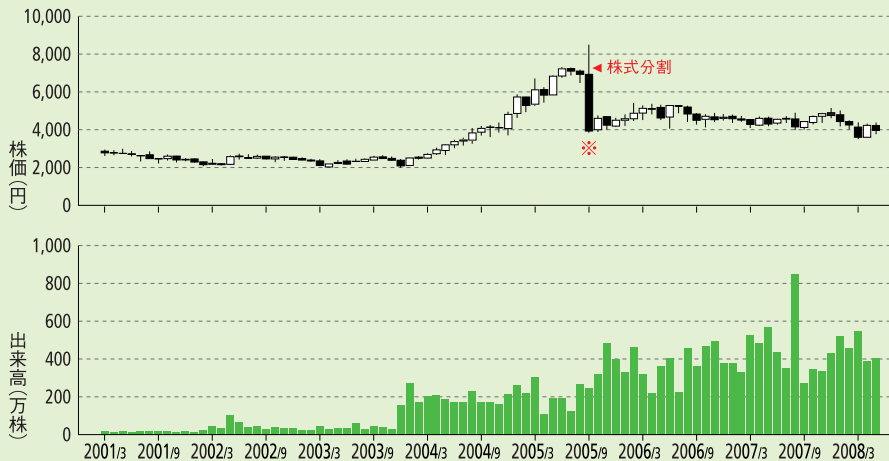
●株式の状況 (2008年3月31日現在)

■会社の発行可能株式総数 149,672,000株

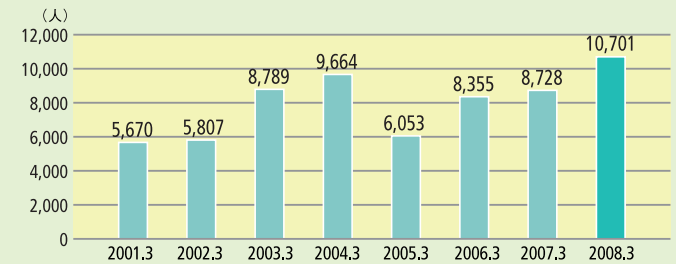
■発行済株式総数 51,203,108株

■株価・出来高の推移 (2008年5月31日現在)

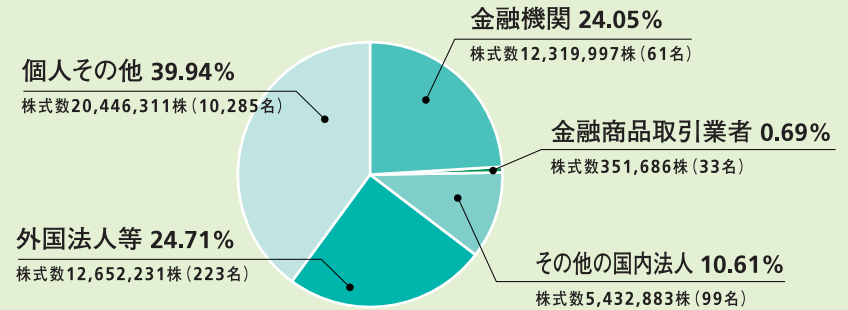
※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



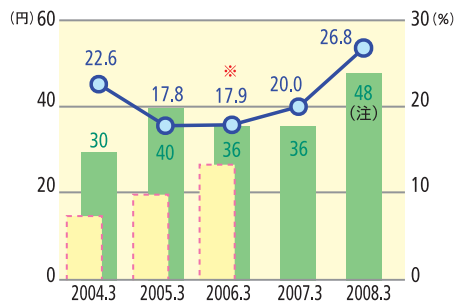
■株主数の推移



■所有者別分布状況



配当性向(連結) / 1株当たり配当金



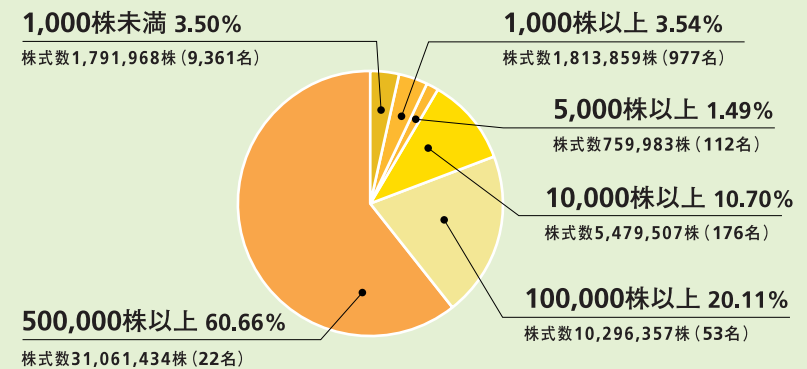
※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。
● 配当性向 ● 1株当たり配当金
■ 株式分割後ベースに換算した場合の配当金

配当政策

当社は、安定的な高成長を継続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向20%を目処に配当を行ってまいります。

(注)：配当金48円…創立40周年記念配当8円を含む。

■所有数別分布状況



●会社概要 (2008年3月31日現在)

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (1998年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)
■設立年月日	1968年2月20日
■資本金	86億5,100万円
■格付け	A (R&I:格付投資情報センター)
■従業員数	1,310名 ※上記の従業員数には関係会社への出向者206名および嘱託、パートタイマー214名は含んでおりません。
■主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器 ならびに関連ソフトウェアなどの 開発・製造・販売・輸出入
■主な事業所	
本社	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524
ソリューションセンター	テクノセンター 研究開発センター
加古川工場	
東京支社/東京支店	仙台支店 北関東支店 名古屋支店
大阪支店	広島支店 福岡支店
営業所	札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、静岡、金沢、 京都、神戸、高松、岡山、鹿児島
首都圏サービスセンター	

■主な関係会社	
	シスメックス国際試薬株式会社 シスメックスメディカ株式会社 シスメックスTMC株式会社 シスメックス物流株式会社 シスメックスRA株式会社 株式会社シーエヌエー SYSMEX AMERICA, INC. (アメリカ) SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC. (アメリカ) SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル) SYSMEX CANADA, INC. (カナダ) SYSMEX EUROPE GMBH (ドイツ) SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH (ドイツ) WELLTEC GMBH (ドイツ) SYSMEX UK LIMITED (イギリス) SYSMEX LOGISTICS UK LTD. (イギリス) SYSMEX BELGIUM S.A. (ベルギー) SYSMEX FRANCE S.A.S. (フランス) SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA, S.R.O. (スロバキア) SYSMEX POLSKA S.P.Z O.O. (ポーランド) SYSMEX SOUTH AFRICA (PTY) LTD. (南アフリカ共和国) SYSMEX DIGITANA AG (スイス) SYSMEX AUSTRIA GMBH (オーストリア) SYSMEX SLOVAKIA S.R.O. (スロバキア) SYSMEX HUNGARIA KFT. (ハンガリー) SYSMEX CESKA REPUBLIKA S.R.O. (チェコ) 済南希森美康医用電子有限公司(中国) 希森美康香港有限公司(中国) 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国) 希森美康電腦技術(上海)有限公司(中国) 希森美康生物科技(無錫)有限公司(中国) SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD. (シンガポール) SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD (マレーシア) SYSMEX INDIA PVT. LTD. (インド) SYSMEX (THAILAND) CO., LTD. (タイ) SYSMEX SAN TUNG CO., LTD. (台湾) SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED (ニュージーランド) PT. SYSMEX INDONESIA (インドネシア)

●株主メモ (2008年3月31日現在)

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■基準日	
定時株主総会	3月31日
期末配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
	その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。
■公告掲載新聞	日本経済新聞
■上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■証券コード	6869
■単元株式数	100株
■株式事務	
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
(郵便物送付先・ 電話照会先)	
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

- お知らせ**
- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人の電話0120-684-479 (通話料無料) で24時間承っておりますので、ご利用ください。
 - 配当金をゆうちょ口座または銀行口座へお振込みすることができますので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
 - 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは株主名簿管理人にお問い合わせください。

●役員のご紹介 (2008年6月20日現在)

代表取締役社長	家次 恒	取締役 執行役員	中谷 正	常勤監査役	宮内 利幸
取締役 専務執行役員	雪本 賢一	取締役 執行役員	大東 重則	常勤監査役	小林 晴美
取締役 常務執行役員	和歌 光雄	取締役 執行役員	中島 幸男	監査役	藤岡 弘
取締役 常務執行役員	岩崎 為雄	取締役 執行役員	田村 幸嗣	監査役	稲益 勇
取締役 常務執行役員	林 正好				

* IR・広報室からのお知らせ *

**野口みずき選手、
北京オリンピック出場決定！
皆様の応援をよろしくお祈りします！**

日本陸上競技連盟は、シスメックス女子陸上競技部所属の野口みずき選手を、北京オリンピック女子マラソンの日本代表選手として正式に決定しました(2008年3月10日)。記者会見では、多くのメディア関係者を前に、「4年前は、オリンピック代表の決定が早かったので、今回の方がうれしさ倍増という気持ちです。アテネオリンピックの時とは違った新たな気持ちでワクワクします。目標が高ければ高いほどやるぞという気持ちになります。」と野口選手はオリンピック出場への意気込みについて話しました。

また、「全国の皆さんから『がんばれ』というお手紙をたくさんいただきました。ジョギングで出会う人たちが、あたたかい声をかけてくださいました。改めて応援して下さった皆さん、監督、コーチに感謝します。これまで走ってきた努力の結果を世界中の人たちに見てもらいたいです。」と感謝の気持ちを語りました。

北京オリンピック女子マラソンは、8月17日(日)に行われる予定です。皆様のあたたかいご声援をよろしくお祈りします！



北京オリンピック出場を決めた
東京国際女子マラソン大会(2007年11月18日)
2時間21分37秒の大会新記録で優勝



記者会見での様子(2008年3月10日)



メール配信サービスは
ご登録されましたか？

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせするメール配信サービス(ご登録・購読無料)へのご登録はお済みでしょうか？

随時、最新の情報を発信してまいります。多くの皆様のご登録をお待ちいたしております！

メール配信サービス

読者募集中(登録無料)

最新の会社情報を
メールにてお知らせします。

   **お申込み**

click!



最新のプレスリリース・IRトピックスを配信します。

ご登録はこちらへ

www.sysmex.co.jp/ir/m_mag.html

(IR・広報室 H・Y)